

動物・植物・生態系の確認状況

動物・植物

- 動植物の現地調査の結果、新しく多くの生物が確認されました。
- スイムシハナカメムシなど、重要な種も新しく確認されました。

現地調査によって
確認された重要な種の一例

シンジコハゼ



スイムシハナカメムシ



分類群	確認種数					重要な種の確認種数				
	全域	宍道湖	大橋川	中海	境水道	全域	宍道湖	大橋川	中海	境水道
哺乳類	26	15	13	26	-	6	3	1	6	-
鳥類	259	224	114	217	31	92	80	30	79	3
爬虫類	13	5	9	12	-	4	2	2	4	-
両生類	15	6	7	12	-	10	2	2	10	-
魚類	192	100	74	156	112	17	15	9	11	5
陸上昆虫類	2,447	1,356	1,576	1,614	4	56	22	26	30	1
陸産貝類	701	348	343	642	339	42	25	19	30	13
底生動物	718	454	590	388	150	11	2	6	7	0
陸上植物	235	76	112	128	59	32	22	14	18	0

生態系

上位性

生態系の上位に位置するミサゴやスズキの生息状況（分布や餌など）を確認しました。



捕獲した魚を持って
飛び去る様子

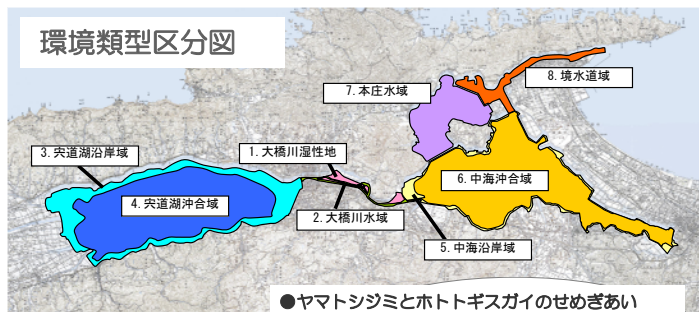


胃内容物より食性を
調査

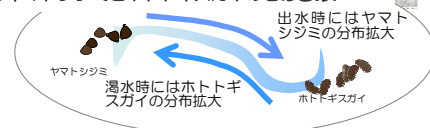
典型性

生物の生息・生育環境等から8つの環境類型区分に分け、それぞれの区分毎に代表的な生息種などを検討しました。

環境類型区分図



● ヤマトシジミとホトトギスガイのせめぎあい



移動性

大橋川を通じて宍道湖、中海、海域等の異なる水域を移動するマハゼ（稚魚を含む）、サッパ、コノシロを選定し、移動状況を確認しました。



マハゼ



サッパ



コノシロ

例) 大橋川の典型性のイメージ

1. 大橋川湿性池

水田、湿性草本群落
が大部分を占める。



2. 大橋川水域

塩分は上流部で低く、下流部では高くな
っており、経時的な変動が大きい。



3. 宍道湖沿岸域

水深4m以浅の沿岸域。東から西に向けて塩分が低くなる。底質は砂分が卓越する。

5. 中海沿岸域

水深3m以浅の沿岸域。塩分は西部でやや低く、東部では高い。夏季に貧酸素化することがある。

4. 宍道湖沖合域

水深4m以深の湖盆部。大橋川から高塩分水が流入する。夏季に貧酸素化しやすい。

6. 中海沖合域

水深3m以深の水域。境水道を経由した高塩分水が流入する。貧酸素化しやすい。米子湾は富栄養化しやすい。

7. 本庄水域

堤防によって区切られた閉鎖的な水域。塩分成層は微弱で貧酸素化が起こりにくい。

8. 境水道域

塩分は最も高く、底質は砂分が卓越している。流動性が高い。